

日本学术名著对照系列丛书

报德生活的原理与方法——和平生活之路

报德思想与实践译丛 4

◎ 佐々井信太
◎ 王秀文 郭



吉林大学出版社

日本学术名著对照系列丛书

报德生活的原理与方法 ——和平生活之路

◎ 佐々井信
◎ 王秀文 郭

报德思想与实践译丛 ④



吉林大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

报德生活的原理与方法：和平生活之路 / (日) 佐々井信太郎著；王秀文，郭勇译. — 长春：吉林大学出版社，2013.5
(日本学术名著对照系列丛书·报德思想与实践译丛 4)
ISBN 978-7-5677-0051-2

I. ①报… II. ①佐… ②王… ③郭… III. ①二宫尊德(1787~1856)—政治思想—思想评论 IV. ①D093.134.1

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2013)第 107740 号

日本学术名著对照系列丛书

报德思想与实践译丛④

报德生活的原理与方法：和平生活之路

(日) 佐々井信太郎 著；王秀文，郭勇 译

责任编辑、责任校对：张树臣

封面设计：张沐沉

吉林大学出版社出版、发行 长春科普快速印刷有限公司 印刷

开本：150×230 毫米 1/16

2013 年 6 月 第 1 版

印张：18.125 字数：500 千字

2013 年 6 月 第 1 次印刷

ISBN 978-7-5677-0051-2

定价：68.80 元

版权所有 翻印必究

社址：长春市明德路 421 号 邮编：130021

发行部电话：0431-88499826

网址：<http://www.jlup.com.cn>

E-mail：jlup@mail.jlu.edu.cn

译者前言

作为“东北二宫尊德研究所”学术研究活动的内容之一，自2007年初开始筹划《报德思想与实践译丛》的翻译、出版工作，经历了与日本方面的沟通、协调和制定方案、组织人力翻译等过程，于2010年6月出版了其第一部《二宫翁夜话》，2011年5月出版了第二部《二宫先生语录》，2012年7月出版了第三部《报德记》，而今完成了《报德生活的原理与方法》的翻译工作，即将付梓，甚感欣慰。

本套译丛选择日本一圆融合会刊《现代版报德全书》作为翻译底本，首批计划翻译出版5部，即：

《二宫翁夜话》（福住正兄原著·佐々井典比古译注）

《二宫先生语录》（斋藤高行原著·佐々井典比古译注）

《报德记》（富田高庆原著·佐々井典比古译注）

《报德生活的原理与方法》（佐々井信太郎著）

《报德仕法史》（宫本一积著）

《报德生活的原理与方法》由佐々井信太郎著，收编为《现代版报德全书》（4）出版发行。在翻译出版中文版本之际，考虑到中日学术研究和双语交流之便，采用了中日文对照形式，即中日文对照版。在翻译过程中，我们遵循学术著作的翻译方法和中日文对照版的特点，以忠实原文的直译为主，字斟句酌，在此基础上力求译文通畅、通俗易懂，同时也力求反映原作的时代、内容与写作特点和风格。为了方便读者阅读理解，译者针对部分词语添加了脚注，作为附录在文末附注了二宫尊德时代的日本度量衡表，仅供参考。

在中国，翻译出版二宫尊德研究基本文献是首创性工作，主要动机有二：其一，是为中国研究者，尤其是为不谙日文的中国研究者提供学术研究支持和帮助，这也是当前学术研究的迫切需要；其

二，是促进中日民间文化交流，增进中日文化的相互了解、理解，促进相互学习，相互借鉴，共同发展。

本套译丛由大连民族学院教授王秀文策划，本册由王秀文、郭勇翻译。在翻译、出版过程中，尤其得到了国际二宫尊德思想学会理事长草山昭先生、报德博物馆馆长小笠原清先生的热情支持和关心，同时也得到了大连民族学院相关部门和吉林人民出版社的大力协助，另外还欣获中日关系史研究专家关捷教授为本书作序，在此一并表示衷心感谢。

本册的翻译工作是在业余时间进行的，时间紧、工作量大，不尽人意之处在所难免。为此，敬请广大读者提出宝贵意见，以期择机修正。

王秀文

癸巳年春节，于大连



目录

第一篇 绪论

第一章 和平生活的构想	2
第二章 当今社会可能重建吗	20
第三章 基于二宫先生体验的真理开辟概观	38
第四章 关于最近的报德批评	62

第二篇 原理

第五章 宇宙与人生的实态	78
第六章 因果轮回的法则与天道及人道	92
第七章 表现在万象轮回上的开辟	106
第八章 基于一圆融合原理的报德生活法	118
第九章 世界上的生活概念与报德生活	130

目次

—— 第一篇 序説 ——

第一章	平和生活の構想	3
第二章	今の世は建て直し得るか	21
第三章	二宮先生の体験による真理開びゃくの 概観	39
第四章	最近の報徳批判について	63

—— 第二篇 原理 ——

第五章	宇宙及び人生の実相	79
第六章	因果輪廻の法則と天道及び人道	93
第七章	万象の輪廻に表現する開びゃく	107
第八章	一円融合の原理に基づく報徳生活法 ...	119
第九章	世界における生活概念と報徳生活	131

—— 第三篇 报德生活的方法 ——

第十章	将日常生活报德生活化的方法方式 …	144
第十一章	作为报德生活的勤劳 ……………	158
第十二章	天分与分度生活 ……………	186
第十三章	报德生活的实践与推让 ……………	210
第十四章	报德方法及其模式 ……………	222
第十五章	报德生活的组织 ……………	234
第十六章	其后继者 ……………	250
附录：		
	二宫尊德时代的日本度量衡表 ……………	266

第三篇 報徳生活の方法

第十章	日常生活を報徳生活化する方法様式……	145
第十一章	報徳生活としての勤労 ……………	159
第十二章	天分と分度生活 ……………	187
第十三章	報徳生活の実践と推譲 ……………	211
第十四章	報徳仕法とその様式 ……………	223
第十五章	報徳生活の組織 ……………	235
第十六章	その後を襲ぐもの ……………	251



第

一

篇



第一章 和平生活的构想

一、在日本出现的和平生活

在这里，能够介绍不为关心和平的世界所知的生活实态，向热切希望和平的全世界有良知的人们进行报告，我深感荣幸并无比喜悦。这不是简单的新构想，而是基于目前的体验而提出的事实，同时也是随时可以提供实验模式的报德生活。

其创始人是在 100 年前逝世的二宫尊德先生（天明 7 年生，安正 3 年逝世。1787—1856）。当时的日本处于封建体制下，被分割为数百个小领地，其中的数个领地因实行了称为“报德仕法”方法而成功。而当中称为樱町领的地方是土地面积有 500 町步的 3 个村，至明治维新为止的 40 年时间里，与近邻相比，其文化设施水平最高，无一家贫困，无一名罪犯，是一个没有纠纷的和平之乡。

很多领地有感于其业绩，恳请传授其方法，其中日光、相马、下馆以及单独的片冈等因完善了指导要求的对策而获得成功，取得了令人惊叹的成绩。此外，因为以一人一家为单位实施这个方法而成为出色人物、长久维持了辉煌家业的实例数不胜数。

这个方法并非只是由二宫先生亲自实施和指导的，其继承人的子孙、门徒们也在不同的时机取得了同样的成绩。此外，还有的町村翻阅记录着这些实施方法与成绩及其方法模式与理论根据的、多达万卷的书籍，如同临摹一样实施并正在取得优良业绩，这样的町村现在已经达到了相当多的数量。

如果说有遗憾，那就是现在的实验地域狭小，年数也不够多。但是我们相信，其原理和方法足以影响一国、推广到世界。

第一章 平和生活の構想

一、日本にもえ出た平和生活

ここに平和に関する世界にまだ知られていない生活の実態を紹介し、平和を切望している全世界の心ある人々に告げることのできるのは、私の光栄とする所であり、また大きな喜びとする所である。それは単なる新構想ではなく、眼前に体験をもって提示した事実であり、また何時でも実験し得る様式が準備せられてあるところの、報徳生活である。

その創始者は今を去ること百年前に没した二宮尊徳先生である（天明七年生、安政三年没。一七八七—一八五六）。当時日本は数百の小領土に分割された封建制下にあったが、その中の数領土に実行した「報徳仕法」と名づけた方法をもって成功した。そのうちの桜町領と称せられたのは地積合計五百町歩の三ヵ村であるが、明治維新に至るまで約四十年間、その近隣に比して文化施設は最も高く、一軒の貧家もなく、一人の犯罪者もない、紛議絶無の平和郷であった。

この成績に感じて、その方法をうつすことを懇望した多くの領土中、指導に適応した施策を完了して成功した日光、相馬、下館、及び一村としての片岡など、実に驚くべき成績であった。その他この方法を一人一家に実行して、すぐれた人物となり、かがやかしい家を、しかも永く保った実例は数え難いほどであった。

この方法は二宮先生が自ら実行し、また指導した場合だけでなく、その相続者たる子孫、その門人たる人々が、それぞれの機会に同じような成績をあげた。更にその実施の方法及び成績と、これを実行する方法様式及びその理論的根拠とを記録した一万巻という莫大な書冊をひもといて、これを模写したように実行して良い成績を得つつある町村が、現在相当数に上っている。

もし遺憾だといえ、現在までの実験は地域的に狭く、年数的に短期であることであるが、その原理と方法とは、一国に及ぼし世界に広めるに足ると信ずるものである。

这里所谓的和平，并非远古神话时代中能够单纯维持生命程度的和平，而是发挥和普及高度进步的文化，维系没有疑念与妒嫉之社会生活的和平。我们姑且不论作为理想境界而被描写的极乐净土和天国以及中国的圣人之世，在这里针对现实生活中绝对不可能有和平的这种所谓的常识，展示通过人道的努力去不断创造和开辟的和平是完全可能存在的。

通过人道努力的和平，经常伴随着纠纷和战争来被寻求，或者通过妥协与互让被维系着。然而，这些都不是彻底的和平，而是疲惫不堪的结果的产物。那不是立足于和平生活哲理之上的和平，而是妥协的和平。而且，没有和平是人生的文化开辟的自觉，没有和平是国际性的判断，没有小到一家、邻里、社会的生活应该和平的这个生活哲理，那便显示了文化的幼稚性。

然而，二宫先生的所谓和平，不仅是国际性的，而且也是国内的、社会的，设想到了从一家到一个人生活的和平。二宫先生说：“天地相和万物生，夫妇相和子孙生，贫富相和财富生，国用足矣。”这与孔子所谓的“礼之用和为贵”相比，可以清楚地发现其对“和”的理解更加深刻。

关于“和”的方法，孔子说：“丘也闻有国有家者，不患寡而患不均，不患贫而患不安。盖均无贫，和无寡，安无倾。”二宫先生推行基于分度的报德推让团结，达成了互助。可以说，二宫先生实现了孔子的理想。

二、现代人的和平概念及其方式

1. 渴望和平的声音 目前，和平运动的趋势不断升温，实在令人感到欣慰。拥有原子武器的美苏英等国知道使用这种武器人类就会全部灭亡，所以对和平的要求变得很迫切。即便不是能令全人类灭亡的氢弹，落在广岛、长崎、比基尼岛的炸弹在时隔多年的现在仍然在释放着原子病，而日本人则不得不蒙受其困扰。因此，我们向世界呼吁禁止使用原子武器是具有意义的，而且我认为必须进一步发掘禁止使用原子武器的意义。那就是出于什么原因使用了原子武器。

ここに平和というのは、上代神話時代にでもあったであろうように、単純に生命を保持し得た程度の平和ではなく、最も高く進歩した文化を活用し、その文化が普及し、疑念なく、ねたみのない社会生活が営まれている平和である。理想的描写としての極楽浄土や天国や、中国の聖人の世はいざ知らず、現実生活における絶対平和はあり得ないとする常識に対し、人道の努力をもって不断に創造し開きつづける平和はあり得ることがここに示される。

人道の努力による平和は、紛糾や戦争に伴って常に求められ、妥協や互譲で保たれて来たが、いずれも根本的な平和でなく、疲れ果てた結果の産物である。それは平和生活の哲理に立脚した平和でなく、妥協的平和なのである。そのうえに、平和が人生の文化の開きつづけであるという自覚を持たず、平和は国際的なことであると判断し、小さくは一家、隣家、社会の生活が平和であるべき生活の哲理を持たないことが、まだ文化の幼稚性を示すものである。

しかるに二宮先生の平和は、国際的にとどまらず国内的にも、社会的にも、一家の生活から一身の生活に至るまでを想定した平和である。二宮先生は言われる、「天地相和して万物生じ、夫婦相和して子孫生じ、貧富相和して財宝生じ、国用足る。」と。これは孔子が「礼の用は和を貴しとなす。」と言ったのと比べて、和の深さが一段掘り下げられていることが明らかである。

孔子は和の方法として、「国をたもち家を保つものは、資材のすくないのを憂いとしなくて均しくないのを憂い、貧しいのを憂いとしなくて助け合わないのを憂いとする。なぜならば財は均しければ貧しいものはなく、助け合えば少ないものはなくなり、平和は乱されない。」という趣旨を述べているが、二宮先生は助け合いの方法として分度による報徳推譲の結束を勧めてこれを達成した。孔子の理想は二宮先生によって実現せられたのである。

二、現代人の平和概念とその様式

イ、平和熱望の声 平和運動の動きは熱度が高くなりつつある一方である。誠に喜ばしいことである。原子兵器を所有するに至った米ソ英の三団がこの兵器を用いれば、人類が全滅すると知っては、平和の要求は切実ならざるを得ないのである。また人類を全滅する程の水爆でなくとも、広島長崎、ヒキノの爆弾でさえ、数年を隔てた今日まだ原爆症が現出する、その苦悩を日本人に課せられていることからでも、私どもは原子兵器使用禁止を世界に訴える意義を持つものであるが、私は原子兵器使用を禁止する意義を更に掘り下げて見なければならぬと思う。それは何がゆえに原子兵器を使用したのかということである。

使用原子武器的基础在于对战争的肯定。因为有战争，所以使用了原子武器。那么，如果制定了禁止原子武器的国际协约或公法，将来就不会使用原子武器了呢？我们要预想到，一旦混战起来，国际协约就将被无视，就会违反公法。尤其是我们不能同意，不使用原子武器就不得不战争这样的观点。令人遗憾的是，爱因斯坦、罗素等 8 名学者关于防止原子能战争的声明并没有达到否定战争论的程度。

但是，从一个侧面来看，人类 5000 年的历史就是战争的连续。另一方面，我们的祖先自古以来就否定战争，倡导和平。和平论或是在表面上或是在实际上都在反反复复地被提及，但是还是在深受战争之害时的呼声多。

随着人口的增加，为了追求生活之利开始进行征服和侵略，人们选择对方处于弱势之时发动战争，而为了庆祝胜利称赞战死杀场上的人为勇士。虽然如此，内心祈求和平的妻子儿女并不是少数。如此，和平是针对战争而产生的概念，如今迫切的和平论也是与史无前例的原子武器之灾具有因果关系的和平论，而并非源自人类生活的和平这一本质的和平思想。

2. 与和平相关的机构 现代人的和平概念是为了避免战争现实悲痛的相对概念，因此，实现和平的处世观念是顺应现实世态的对症方法。

在历史上，和平的处理方法是通过媾和协约和多国会议结束战争，恢复和平邦交来处理善后。但是，如果利害关系非常相背，则和平马上就会破灭，变成交战状态。十分令人遗憾，权益的争夺支配着人生，这是很明显的。弱肉强食经常用来形容动物的生活实态，但是一直以来有人说人类的一个侧面也与此类似。在动物的日常生活中，蛇吞蛙，猫食鼠等常被作为例子来看，但是从宇宙进化的顺序来讲，后代发生的动物吃前代发生的动物是生存的顺序。问题不是人类食用谷物、饲养动物，而是人与人之间的关系，爱护动物是人类情感的扩充。无论有否自然环境的利害关系，蛇与蛇、猫与猫之间平素即不是有意识地进行生存竞争，也不是进行利益之争。权力之争于人类是显著的，这表现出文化的幼稚性。因此，权利之争激烈之时就是战争。因此，直面这悲惨的战争，对和平的期待也就显得更为迫切。

原子兵器を使用した根底には戦争の肯定がある。戦争があるから原子兵器を使用した、そこで原子兵器を禁止した国際協約とか公法とかが成立すれば、将来には原子兵器を使用しないかと言えば、乱戦になれば協約は無視せられ、公法に違反することも予想して置かねばならぬ、特に原子兵器さえ使用しなければ戦うこともやむを得ないということは承認できないのである。アインシュタイン、ラッセル等八人の学者の原子力戦争防止に関する声明も、戦争否定説に達していないのは遺憾である。

しかし人類五千年の歴史は、一面から見れば戦争の断続である。そうして一面にわれらの祖先は早くから戦争を否定して平和を唱えて来た。平和論はあるいは表面に、あるいは内実の話に繰り返された。しかしそれは戦争の禍害に悩んだ時の声が多かった。

人口が増加し、生活上の利を追うて征服や侵略が行われ、その敵手の弱勢な時には好んで戦争を起こし、あるいは戦勝を祝って、その戦場に倒れたものを勇士として称誉することがあっても、その陰に平和を希望する妻子は少なくなかったのである。こうして平和は戦争に対する概念として生じたものである。現在の切実な平和論もまた、前代無比の原子兵器の惨禍と因果関係を持つ平和論である。人類の生活が平和であるべき本質からの平和思想ではない。

ロ、平和に関する機構 現代人の平和概念は戦争の現実悲痛を避けようとする相対的概念であるから、平和実現の処世観もまた現実の世相に即応する対症的方法である。

歴史上における平和の処理は講和協約・列国会議で戦争を終結し、平和国交を回復して始末をつけていたけれども、利害関係がはなはだしく相反するに至れば、たちまち平和は破れて交戦状態になる。実に遺憾なことには利権収奪が人生を支配して来たことは顕著な事実である。弱肉強食という形容詞を動物の生活の実態として、人類の一面がそれに類するように言ってきたが、動物の日常生活において、蛇が蛙を呑み、猫が鼠を食う類を例に挙げるけれども、宇宙進化の順序から言って、前代に発生した生物を、後代に発生した動物が食うことは、生きる順序であって、人類が穀物を食い、動物を飼育することを問題にするのではないのであって、人と人との間の関係を問題にするのである。動物愛護はこの人情の拡充である。蛇と蛇、猫と猫との関係は、自然環境の利害便否はあっても、彼らは平素存在を意識的に競争するでもなく、利害を争うという程でもない。利権を争うのはむしろ人類の方に著しく、文化の幼稚性を表示しているのである。そうしてその利権争奪の強烈な場合が戦争である。そうしてこの悲惨なる戦争を直視して平和の要求が切実になったのである。

作为这种人类本质所拥有的温和表现，自古代开始就有和平的呼声，而且常常得到宗教家、哲学家的强调。其中，康德关于永久和平的论文最为著名。

1795年出版的“永久和平”是最为著名的和平构想。书中提到：

- 1) 和平条约即为休战。
- 2) 独立国不可被视为财产。
- 3) 彻底废除常备军。
- 4) 任何国家不得暴力干涉他国宪法或政府。
- 5) 市民性的宪法即共和宪法。
- 6) 国际法以自由国家联合为基础。
- 7) 世界市民的人权须受到普遍优越条件的制约。

虽然康德如此明确了和平的意义并提出了方案，但是保障永久和平的力量在于神意支配的人的艺术性的、自然的力量。这种自然力量通过国内法、国际法和世界公民法得到确保，而只有通过实践理性才能够实现。因此，关于公共和平的可能条件，哲学家给予的格律应该由因战争而装备起来的国家来了考虑。关于永久和平的不和谐，因为处于道德与政治之间，所以不达成一致便不会得到保障，而这一点正在进行追加论证。

这个和平条款与印度和东南亚诸国的和平五原则很相似，但是康德的和平论与后来顺应战争事实而完善和平机构的一般思想一样，都是符合现实的思想。

后来的一般思想是以现在的联合国为代表的，爱因斯坦提倡的世界国家或世界联邦也是其思想之一，都是寻求和平的和平论。

3. 和平概念的内容 人类的高级性格是概念的进步，避讳战争、寻求和平的情感是人类的特点。然而，却没有涉及到超越现实、人类永远和平生活的哲理。这是因为陷入了一种模式，既欧洲人承认生存竞争的常识。